

HIV は、血液・精液・膣分泌物・母乳等の体液に含まれ、感染経路は主に血液感染、性感染、母子感染である。医療従事者が注意する必要があるのは血液および体液の取り扱いである。標準予防策（スタンダードプリコーション）を行うことで医療行為に関連した HIV 感染は防ぐことができる。

1 感染予防対策

HIV 感染対策の基本は標準予防策（スタンダードプリコーション）の徹底である。標準予防策については北大病院感染対策マニュアル 2-1. 標準予防策（スタンダード・プリコーション）を参照。

- (1) 個人防護具の選択 程度と範囲によって適切な個人防護具（PPE）を選択して使用する
 - ・血液、体液、排泄物、傷のある皮膚、粘膜に触れる可能性がある場合
 - ・血液等の飛散や接触により医療者の皮膚や粘膜、衣服を汚染する可能性がある場合
- (2) 針刺し・切創防止対策
 - ・針刺しが起こるパターンを認識する
 - ・曝露回避のための日常行為を厳守する
 - ーリキャップの禁止
 - ー針は使用後ただちに鋭利器材破棄容器に入れる
 - ー安全装置付き針を適正使用する
 - ・採血、点滴時の手袋着用を徹底する

2 消毒について

HIV はレトロウィルス科の RNA ウィルスであり、生体内や細胞培地など以外には複製能力がないため、宿主の外にでると長期生存できず感染力も弱い。また、エンベロープを有しており消毒薬の感受性もよく、容易に不活化される。HIV は現在用いられている消毒薬の指定濃度よりも、はるかに低い濃度でかつ短時間で不活化される。そのため、日常の医療器材の消毒方法で十分効果が認められる。

■参考文献■

- 1) 新版増補版 消毒と滅菌のガイドライン . へるす出版 , 2015.
- 2) 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業 HIV 感染症の医療体制整備に関する研究班 HIV 医療包括ケア体制の整備に関する研究編 . HIV 感染症看護 基礎研修編 . 2015.

(看護部 武内 阿味、渡部 恵子、得永 布由子、中野 政子、鹿内 三紀子、2020.07)